

海外研修レポート

研修医2年 清水 総一郎



私は2010年5月にアメリカのイリノイ州シカゴにあるRush University MedicalCenterに1ヶ月留学させていただきました。このRush University MedicalCenterは、私の叔父でもあり、4年前まで川崎医科大学付属病院の整形外科に所属されていた、今井先生も留学された病院でもあり、同じ整形外科医を目指す私としては行かない理由はありませんでした。

ただ私は、英語は決して得意ではなかったため留学生活へ不安がありましたが、同じ研修医であり整形外科医を目指す、河本先生も海外研修に行くことを知り、留学生活への不安が減りました。

私たちが行った5月のシカゴは、1日の気候の変化が激しい時期であり、T-シャツで過ごせるくらい暑い日があれば、コートがないと凍えてしまいそうなくらい寒い夜にあることがありました。私たちが滞在したホテルは、昨年留学された牧山先生の推薦もあり、ダウンタウンの中心部にあるホテルに決めました。地下鉄を使用し約30の通勤時間でした。立地条件は最高で、病院への通勤はもちろん、アメリカ4大スポーツのチームがシカゴにはそれぞれあるのですが、すべてのスタジアムに行くのにも地下鉄で約30分程度と便利でした。

Rush University MedicalCenterでは、スポーツ・脊椎をそれぞれ2週間研修させていただきました。研修内容は、最初の2週間はスポーツでの研修であり、関節鏡や手を研修させていただきました。アメリカの手術開始は早く、7時過ぎには入室時間になってしまうため、6時過ぎにはホテルを出発していました。

長谷川先生は、今回渡米する前に英語が得意ではない私にアドバイスしていただきました。その言葉は「笑顔を忘れるな」というものでした。その言葉を胸に秘め、研修がスタートしました。しかし、私が研修前に考えていた緊張はすぐになりました。その理由はドクターをはじめとするコメディカルスタッフの皆さんが大変親切にさせていただいたからです。手術内容の説明では、Bush-joseph教授自らパソコンにて、丁寧に教えていただいたり、関節鏡のDVDもいただきました。コメディカルスタッフの皆さんは、私たちのホテルの住所を聞くと、地下鉄よりバスのほうが便利だと教えてくれましたし、おすすめの観光地も教えてくれました。



関節鏡は、1日4~5件ほどあり、2室での同時進行でした。手術室では、レジデントやフェローのドクターたちが準備し、それぞれの教授は、主要な部分を終わるとあとは、レジデントやフェローのドクターたちに任せ退室し隣の手術室に移動するのです。日本でも関節鏡を拝見したことがない私ですが、関節鏡下での前十字靭帯再建術はとても興味深いものでした。Rush University MedicalCenterでは、毎日アメリカ全土や海外からの見学者が訪れており、私が見学している時もオーストリアやカナダ、チェコからドクター達が見学に来ていました。そのドクター達が私みたいに若い医師ではなく、かなり年配の先生たちも来ていたため、この病院が世界でも最先端の医療を行っているのだと感ずることができました。

あと、食べるのが大好きな私ですが、病院内の職員食堂がバイキング形式になっていることは、研修の中でも楽しみの1つでした。



我々の研修を受けて下さった、ホスト先のAn教授・Bach教授をはじめとするRush University MedicalCenterの関係者の皆様には、大変お世話になり心より感謝申し上げます。

皆様のご協力の下、無事にシカゴでの海外研修を終えることができ、この機会を与えてくださった、柏原直樹レジデント教育委員長、プログラムディレクターの長谷川徹教授、角田司病院長、福永仁夫学長、川崎明德理事長先生をはじめとする川崎医科大学付属病院関係者の皆様に心より感謝申し上げます。